

1. はじめに

フィールド(野外)に生物を探しに行くことが僕の趣味です。まさに、その種の生きている環境で生物を見つけ出し観察することと、それに至るまでの過程が、生物に関わる中で僕にとって一番楽しい時間です。中高生活の間で僕がしてきた野外観察の方法をまとめたいと思い、この記事を書くことにしました。記述することは、何らかの文献から学んだもの、人から模倣したもの、自分で編み出したものなどさまざまですが、すべて僕のしている方法です。

2. 筆者が野外観察をしてきた分野

筆者が観察をしてきた生物の範囲は、生物全体の多様さを考えると非常に狭いものです。そのため、筆者がどのような観察をしてきたかについて言及する必要があると考えました。

筆者は、昆虫、魚類、両生類、爬虫類に主に関心があります。野外観察に利用するフィールドは山、森林、川であることが多いです。観察の分野がこれらに当てはまらない場合、ここで記述する方法は使用できない可能性があります。

3. 観察の流れ

(1) ターゲットの決定

まず、何を観察したいかを決めます。ターゲットの「単位」は場合により様々です。1種のことでもあれば、この科の生き物が見たい、ということもありますし、こういう環境に生息する生物をその分類は問わず観察したい、ということもあります。

(2) ターゲットの調査

事前調査は、観察をうまく行うために非常に重要です。まず押さえておきたいのは、ターゲットがどのような環境で生活しているのかです。詳しい生態が分かっているほど良いです。これを把握しておくことにより、どんな場所で、どんな箇所に注目して探せばよいのかイメージすることが出来ます。

(3) 観察場所の決定

ターゲットの活動時期にも注意しましょう。あえて活動時期を外し、休眠している個体を観察するという方法もあります。

分布地域の把握も大切です。新たな生息地を発見したい等の目的がないのであれば、分布が明らかである地域で探するのが観察への近道です。

調査に用いるのは図鑑のような書籍やネット上の記事です。

上記のような調査をふまえ、観察場所を決定します。これをうまく行えるかどうかで、観察の成功率が大きく変動します。当然ながら、ターゲットの生息しないエリアで観察に挑んでも、残念ながら成功率は0です。逆に、多く生息しているエリアであれば、慣れた人でなくても、ターゲットを確認できる確率は高いです。

使用するのは「Google マップ」と「地理院地図」です。両方ともネット上で見ることができます。Google マップの武器は、航空写真とストリートビューです。航空写真により、おおまかな植生や川の構造などの把握ができます。ストリートビューにより、実際の画像で林内の様子をのぞけたり、橋の上から川の様子を見たり、といったことができます。地理院地図では、等高線による標高、傾斜の把握ができます。そのため、山で観察を行う際、特に役立ちます。

アクセス手段も踏まえ検討します。例えば公共交通機関を用いる場合だと、当然駅やバス停の近くの場所を探す必要があります。

(4) ターゲット探索

上記のように場所を決定したら、現地を訪れ、ターゲットの探索開始です。事前に調べておいたターゲットの生活様式から、いそうな場所をイメージして探します。

野外観察において、ここが一番難しく、そして一番面白い部分だと思っています。失敗は多いです。しかし、何度も挑戦し、諦めずに粘ってようやく発見できたときの感動は本当にたまりません。

(5) 観察

発見できたら、ようやく観察開始です。観察といっても生物は基本、人間の存在に気付くと必死に逃げるので、捕獲し何らかの方法で手元から逃げないようにして観察するか、気づかれないように探索の時点から注意する必要があります。生物の生活様式そのものを観察したい場合は後者の選択肢をとる必要があります。

4. 僕が重視していること

まず、生物に悪影響を与えないことです。生体の持ち帰りなどは基本行っていませんし、環境を破壊するような探し方はしないよう注意しています。

また、観察の過程で、「対象の生物について考える」ことを重視しています。例えば、僕は場所設定の際、分布情報の少ない地点をあえて選ぶことがあります。そうすることにより、観察は難化し、失敗は増えま

すが、それにより見つけられた地点と見つけられなかった地点の環境の差異を考察することで、どのような環境がターゲットの生息に適するのか、考えることができます。生息が明らかな地点で探すことには、観察者自身の探す手法以外には考慮する余地がなくなってしまうと僕は考えます。このように、生物について考える機会を増やすことで、生物についての理解度と、生物観察のためのスキルがより向上するように感じます。

5. おわりに

野外観察の上で注意すべき点などの記述は割愛しています。僕が実践している方法のみを記述しており、専門家の指導等も特に受けていないため、こういう方法で生物の野外観察を実践している高校生がいるんだな、という程度の認識でこの記事を読んで頂くのが適当であると考えています。